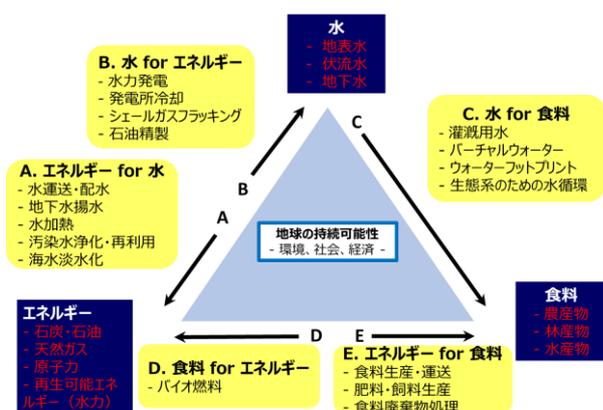


水・エネルギー・食料ネクサス研究室

教員名：遠藤愛子

● どんな研究をしているところ？ どんなことに役立つの？

現在エネルギー分野は、温室効果ガス排出の2/3以上を占めていることから気候変動の大きな要因になっており、化石燃料から再生可能エネルギーへの転換を目指した大型水インフラの建設等、グローバルスケールで押し進められている低酸素社会・低酸素経済を目指したエネルギー政策転換が、地域資源として水や食料を利用してきた地域住民との間にトレードオフ関係を生じさせています。



本研究室では、これらの社会経済的背景の下、形成・発展してきた新学術領域である水・エネルギー・食料ネクサス研究を実施します。「ネクサス」とは、分野横断的、マルチスケールな環境問題のうち、①相互依存又はトレードオフ関係にある資源問題、②資源間の相互依存関係を定量化、又は、トレードオフ関係を最適化するための手法、と解釈されています。さらに、

「ネクサスアプローチ」は、資源間の相互依存・トレードオフ関係を学際アプローチにより解明し、かつ、超学際アプローチに基づき、相互依存化、複雑化、累積化する将来不確実な資源問題を解決するための政策ツールとして、国連、EU等様々な機関やスケールで認知・採用されています。

そこで、本研究室では、沿岸・海洋政策分野を中心に、以下の研究テーマに取り組みます。

- ✓ どうやって、どういうプロセスで異なる学術分野手法やデータを統合するのか？
- ✓ ネクサスアプローチにより、どれだけ水・エネルギー・食料システムを理解できるのか？
- ✓ 持続可能な資源利用に向けて、どれだけネクサスアプローチが、政策アジェンダや人間行動変容を起こせるのか？

● 先輩はどんなところに就職しているの？

2022年度にスタートする新しい研究室なので、この研究室からの卒業生はまだ出ていません。水・エネルギー・食料資源に関する問題解決力の育成を目指します。